

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 1 月 5 日
東京電力株式会社

< タービン建屋地下のたまり水の処理 >

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

・H24/1/4 14:36 第二セシウム吸着装置を起動。14:48 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、 雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/5 9:30 ~ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、 雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/3 10:01 ~ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・1/4 10:00 ~ 16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (1/5 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,845 mm(水位上昇累計: 4,062 mm) 1/4 7:00 から 20 mm 上昇
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 3,084 mm(水位上昇累計: 3,810 mm) 1/4 7:00 から 101 mm 上昇

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (1/5 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (1/4 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,024 mm (1/4 7:00 から 25 mm 上昇)	O.P.+ 4,250 mm (1/4 7:00 から 7 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 3,226 mm (1/4 7:00 から 68 mm 上昇)	O.P.+ 3,196 mm (1/4 7:00 から 62 mm 上昇)	O.P.+ 3,323 mm (1/4 7:00 から 59 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,201 mm (1/4 7:00 から 13 mm 下降)	O.P.+ 3,154 mm (1/4 7:00 から 17 mm 下降)	O.P.+ 3,422 mm (1/4 7:00 から 19 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 3,151 mm (1/4 7:00 から 20 mm 下降)	O.P.+ 3,172 mm (1/4 7:00 から 2 mm 上昇)

< 放射性物質のモニタリング >

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	1/4	8:40	ND	0.07	0.06
福島第一 1~4号機放水口南側約 330m	1/4	8:20	ND	ND	0.01
福島第二 1,2号機放水口南側約 7km	1/4	7:45	ND	0.02	0.02
福島第一 敷地沖合 15km 上層	H23/12/19	8:40	ND	0.01	ND

検出限界値を下げるため、12/19、27の両日採取した福島第一敷地沖合 15km 上層、福島第二敷地沖合 15km 上層分について再測定を実施。

・その他、福島県沖合 5 地点(1/3 採取分)における主要 3 核種(ヨウ素-131、セシウム-134、137)および福島県沖合再測定 2 地点(12/19 採取分: 上記を除く、12/27 採取分)における主要 6 核種(ヨウ素-131、セシウム-134、137、マンガンを-54、コバルト 60、セリウム 144)は全て ND。

< 使用済燃料プールの冷却 > (1/5 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.5
3号機	循環冷却システム	運転中	23.9
4号機	循環冷却システム	運転中	20

[3号機]・H23/12/30 16:54 これまでも吸込圧力が低下する傾向がしばしばあり、今後、運転を継続すると再度ストレーナ詰まりの兆候が発生する可能性があることから、現在のプール水温度が約 13 と十分低いこと、また、ストレーナの逆洗作業での被ばくを考慮して、1月4日までの期間、使用済燃料プールの冷却を一時的に停止する運用とすることとし、当該システムを停止。なお、H23/12/31 以降、使用済燃料プール水温度を確認するため、1日1回当該システムの一次系を運転。(停止時の予想プール水温度上昇:1日あたり約 5.0 ~ 6.0)

H24/1/4 9:56 使用済燃料プール代替冷却システムの継続的な運転を再開。なお、運転再開後はポンプ吸込圧力を注視しながら、適宜、ストレーナのフラッシングを実施。

1/5 11:46 一次系循環ポンプの吸込圧力の低下傾向が継続していることから、当該ポンプ入口のストレーナ交換作業のため、当該ポンプを停止し、使用済燃料プールの冷却を一時停止。停止は 1/7 までを予定しており、この間の使用済燃料プール水温度の上昇は約 0.25 / h 程度の見込み(停止時使用済燃料プール水温:23.7)。

< 原子炉压力容器への注水・原子炉の状況 > (1/5 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約 4.5 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 2.0 m ³ /h)	25.9	26.4	105.6 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約 1.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 9.0 m ³ /h)	50.8	52.2	108 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約 2.9 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 6.0 m ³ /h)	47.0	55.2	101.6 kPaabs

[1号機]・原子炉格納容器雰囲気温度について、H23/12/22 より上昇が見られた1点(C点)、その後緩やかな温度上昇が見られた2点(D点、E点)について傾向を監視中。

C点:(最高値)約 54.6 (H23/12/28 18:00 時点) 約 41.4 (1/5 11:00 時点)

D点:(最高値)約 35.8 (H23/12/29 17:00 時点) 約 31.3 (1/5 11:00 時点)

E点:(最高値)約 40.0 (H23/12/29 17:00 時点) 約 34.3 (1/5 11:00 時点)

・1/5 10:12 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 4.8 m³ / h から約 4.5 m³ / h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m³ / h から約 2.0 m³ / h に調整。

[2号機]・1/5 9:58 原子炉注水ポンプ多様化の作業のため、給水系からの注水量を約 1.7 m³ / h から約 1.0 m³ / h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 8.2 m³ / h から約 9.0 m³ / h に調整。

[4号機][5号機][6号機]・特に変化なし

< その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

・H23/1/4 1号機および2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値(1号機:1.1 × 10⁻¹ Bq/cm³、2号機:1.0 × 10⁻¹ Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/ccを下回っていることを確認。